

令和3年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年3月18日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	多い

○4月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① カンシャワタアブラムシ	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ、イネヨトウ)	やや少	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗) トラップの誘殺虫数が平年より多いため
かんきつ	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② そうか病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 新梢の発生量が増加するため
	④ ミカンハモグリガ	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 新梢の発生量が増加するため
	⑤ ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
かんきつ	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② アブラムシ類	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	③ ミカンハモグリガ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① マンゴーハフクレタマバエ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
キャベツ	① コナガ	やや多	-	-	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
レタス	① アブラムシ類	やや多	－	－	
	② クロゲハナアザミウマ	やや多	－	－	
かぼちゃ	① モザイク病	やや多	－	－	
	② タバココナジラミ	やや多	－	－	
(ゴーヤー)	① うどんこ病	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
	② 斑点病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ ミナミキイロアザミウマ	多	↑	多	つる先当たり成虫数が平年より多いため 平年の発生量の推移(↑)
ピーマン	① うどんこ病	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
	① 立枯れ性病害	多	↑	多	平年の発生量の推移(↑)
	① ヒラズハナアザミウマ	多	↑	多	平年の発生量の推移(↑)
	② タバココナジラミ	多	↑	多	平年の発生量の推移(↑)
トマト	① 黄化葉巻病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② うどんこ病	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
	③ コナジラミ類	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
さいじんげん	① タバココナジラミ	多	↑	多	平年の発生量の推移(↑)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	3月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が中発生であった。施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。
（ゴーヤー）	ウイルス病	WSMoVはミナミキイロアザミウマ、ZYMVはアブラムシ類がウイルスを媒介する。3月のミナミキイロアザミウマの発生量は多発生であり、アブラムシ類無翅虫もハウス内で確認されているため、早期発見と防除を徹底する。また、罹病株は見つけしだい抜き取る。

令和3年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年3月18日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	多い

○4月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ、 イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
かぼちゃ	① うどんこ病	並	-	-	
	② 細菌病	やや多	-	-	
（施設ヤ）	① うどんこ病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。防除員報告により多良間島と伊良部島で多発生情報あり。
	ツマジロクサヨトウ	3月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	チャノキイロアザミウマ	一部ほ場の新葉で発生が確認されている。対策は、不要な新梢やコミカンソウ類など雑草の施設外への除去を行う。
ゴーヤ	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和3年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年3月18日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	多い

○4月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
水稲	① スクミリングガイ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
さとうきび	メイチュウ類 ① (カンシャシンクイハマキ、イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
(施設ヤ)	① 斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。
	ツマジロクサヨトウ	3月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。